

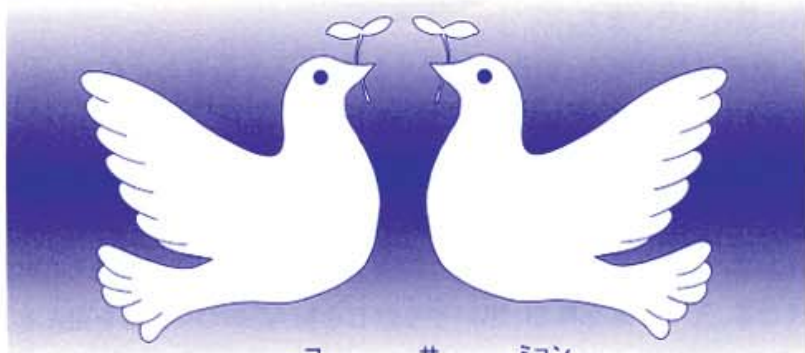
平和を願う念仏者のつどい

民族・国家を越えて ～戦争犠牲者追悼法要～

日時 2011(平成23)年6月18日(土)

12時開場(会場内にお焼香の用意をしておりますので、開式までの間にご自由にお焼香下さい)

13時法要開式 16時終了予定



ご講師 **高史明**さん

作家、評論家。主な著書『生きることの意味』『ほくは12歳』
『歎異抄との出会い』『月愛三昧』等多数。

まっほうごじよく
講題 **末法五濁を生きぬく**
— 眞実の「自然」を求めて —

詩と語りと映像で綴る大空襲の追憶

かえんき

火炎忌 — 私の戦後は終わらない —

福岡大空襲語り部 **門田 照子**さん

会場

筑紫女学園中学・高等学校講堂

〒810-0023 福岡市中央区警固2丁目8番1号

●地下鉄赤坂駅下車、徒歩15分
●西鉄電車福岡天神駅下車(天神霊園神社三軒廻り)より西鉄バス医療道路経由
「赤坂2丁目」下車、徒歩3分
○会場の前車道には限りがございますので、公共の交通機関をご利用下さい。



主催 浄土真宗本願寺派福岡教区 ■問い合わせ先/福岡教区教務所(Tel.092-771-9081)

多くの犠牲者を出した太平洋戦争が終わって65年を経過しました。

1945(昭和20)年6月19日の福岡大空襲では、1,100余名の方が犠牲となり、当福岡組でも8カ寺が被災しました。65年の時間はそれらの寺院の再興の歩みでもありました。

しかし、わが国の憲法第9条に代表される平和への願いは、社会の変化とともに次第に揺らいでいます。

また、世界各地で民族・宗教の対立等を原因として紛争の止む事もなく、多くの犠牲者を巻き込んで解決のめども見えません。

『仏説無量寿経』[現代語版]に「仏が歩み行かれるところは、国も町も村も、その教えに導かれたいところはない。そのため世の中は平和におさまり、太陽も月も明るく輝き…(略)…国は豊かになり、民衆は平穏に暮らし、武器をとって争うこともなくなる。人々は徳を尊び、思いやりの心を持ち、あつく礼儀を重んじ、互いに譲り合うのである」と説かれています。

この、仏法を聞き、仏法に生きることの大切さを根底において、私たち念仏に生きようと願う者の自戒のために、この法要をお勤めしてきました。

『法句経』[ダンマ・パタ(130)]には、「すべての人々は暴力を恐れる。すべての人びとにとって生命は愛しい。自分におきかえてみて、殺してはならない。殺させてはならない」とも示されました。

親鸞聖人は「仏の御恩をおぼしめさんに、御報恩のために御念仏ころにいらして申して、世のなか安穏なれ、仏法ひろまれとおぼしめすべしとぞ、おぼえ候ふ。」[御消息]と教えられています。

これらの法語を戴くとき、改めて本願寺教団の戦争協力という歴史的事実を、一人ひとりのところに刻み、仏法を誤りなく聞くことによって、再びこの過ちを繰り返さないことが私たち念仏者の責務だと痛感いたします。

今回の追悼法要を通して、戦争を拒否し平和を実現することを日々のこころとして、支えあうことのできる社会の実現を願うものです。

皆さま、どうぞお参り下さい。